



Taka Ishii

Maebashi

Gallery

5-9-1 1F Chiyoda-machi Maebashi-shi Gunma #371-0022, Japan
tel: +81 (0)27 289 3521 fax: +81 (0)27 289 5560
email: maebashi@takaishiigallery.com
www.takaishiigallery.com

原田匠悟「Far Gaze」

会期: 2026 年 4 月 11 日 (土) – 5 月 17 日 (日)

会場: タカ・イシイギャラリー 前橋

オープニング・レセプション: 4 月 11 日 (土) 17:00 – 19:00

タカ・イシイギャラリー 前橋は、4 月 11 日 (土) から 5 月 17 日 (日) まで、原田匠悟の個展「Far Gaze」を開催いたします。2024 年 3 月に行われたグループ展に参加後、タカ・イシイギャラリーでは初めての個展となる本展では、最新のペインティング作品約 11 点を発表いたします。

原田が描く対象は、どこことなく心理的な距離感を覚えさせます。人物の多くは足元や後ろ姿だけが捉えられ、その状況を窺い知ることはできません。静物は言葉通り静けさを湛え、その場に取り残されているかのように。いずれの場面でも見る者の存在が消失し、絵画空間は閉じられています。

描かれるモチーフのシルエットはペインティングナイフを用いた不均一な線から構成され、さらにそこから刷毛を使うことで独特のブレと掠れを生じ、外界との境界線を曖昧にしています。面からなる部分はそれぞれのテクスチャーの再現が省略されており、筆のストロークや薄い絵の具の層が残されているのみです。緑と紫の補色関係によって黒を作り出していることを代表に、意図的に限定された色彩は情報量を絞り込み、フィルターがかかったような視覚的效果を与えています。

今ある目の前の光景を、過去に存在したものとして、写真を眺めるように、ある種の俯瞰した視点で捉える節があります。数年前、実家で若い頃の母と当時の母の友人たちが写った写真を見つけたことがありました。そのとき私は妹とその写真を見ていて 2 人で「エモい」と言ったのを覚えています。「エモい」という言葉をよく分かっていませんでしたが、こう言い表す他に思いつかなかったのだと思います。

他人のように見える母と、かつて確かに存在した光景であるという事実が瞬時に想像を巡らせ、感情を揺さぶり私に何か突き刺さるような感覚でした。同時に今私が友人たちと過ごしている光景も数十年後はこう見えるのかもしれないと感じました。かつて確かに存在した光景と経過した年月がそうさせるのであれば、私の絵もいずれそうなれば幸せだと思って描いています。

2026 年 2 月 原田匠悟

原田の作品はすべて自身が日常生活で撮りためてきた写真を参照し生み出されています。制作の基盤にある、絵を描くことは原体験を復元することだという考えからは、写真と記憶の関係性を巡る機微を捉えようとする意図が読み取れます。スマートフォンやデジタルカメラの普及により体験をその場で手軽に記録する何気ない行為が、日々の経験とその記憶の定着に大きな影響を与えていることは言うまでもありません。撮った写真を見返すとその場で認識していなかったことに気づく現象は、イメージ消費にまつわる象徴的な出来事の一例でしょう。原田の制作は、現実をフラットに記録する写真には定着させることができない感覚的で曖昧な要素を画面上に再び取り戻そうとする試みです。キャンバスを前に自らの体験を反芻し生み出されたペインティング作品は、写真を撮り、蓄積し、見返す体験の繰り返しを組み込まれる中で、私たちが日常にどのような眼差しを向けているか改めて問いかけます。

他者が自分の存在に気づいていないと感じた際にシャッターを切り、自分がいなくなったときの風景を想像することがあると原田はいいます。見る者としての主体性を限りなく希薄化させる意図は、新たな物語の生成を促すように、解釈の投影できる余白を作品内に作り出します。一方で、作者自身の体験が絵面に描き起こされることにより、完全には消し去られることのないその視座が前景化し、出来事の瞬間を目にした主体の残滓が漂います。原田の作品を前にして相反する二つの要素が表出するとき、両者は鑑賞者の視線のもとで絶えず収束しては分散し、多層的な彩りを絵画面に刻み込みます。

原田匠悟は 1997 年京都府生まれ、同地を拠点に活動。2020 年に京都造形芸術大学美術工芸学科油画コース卒業、2022 年に京都芸術大学大学院美術工芸領域修了。これまで個展として「Ceiling gazer」biscuit gallery（東京、2024 年）、「mtk+ vol.20 原田 匠悟」mtk+（京都、2024 年）を開催。主なグループ展に、「路傍のオデッセイ」阪急メンズ大阪 Contemporary Art Gallery（2025 年）、「Second Signal」biscuit gallery（東京、2025 年）、「グループ展」タカ・イシイギャラリー 前橋（群馬、2024 年）、「遠い木々が」ピーク 585 ギャラリー（大阪、2023 年）、「Millennials Scale」The Millennials Kyoto（2022 年）など。

是非、貴誌・貴社にて御紹介下さいますよう宜しくお願いいたします。尚、掲載用写真の貸出など、御質問がございましたら下記までお問い合わせ下さい。

タカ・イシイギャラリー 前橋 展覧会・プレス担当: 野田舜士 (press@takaishiigallery.com)

Seiya Nakamura 2.24 Inc. 田邊友里恵 (yurie@seyianakamura224.com)、尾崎悠一郎 (yuichiro@seyianakamura224.com)

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町 5-9-1 まえbashigalleria 1F tel: +81 (0)27 289 3521 fax: +81 (0)27 289 5560

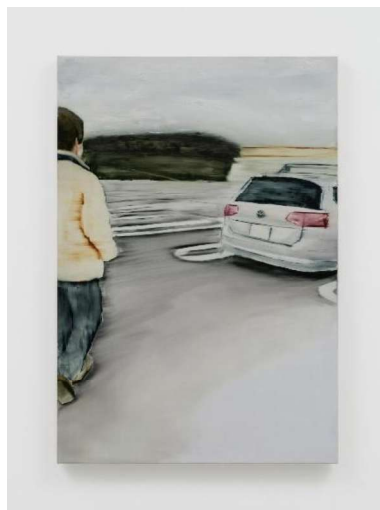
e-mail: maebashi@takaishiigallery.com website: www.takaishiigallery.com

営業時間: 11:00 – 19:00 定休日: 月・火・祝祭日



原田匠悟「Untitled (Noren)」2026 年
キャンバスに油彩
160.3 x 110 cm

© Shogo Harada
撮影: 高橋健治



原田匠悟「Untitled (Emblem)」2026 年
キャンバスに油彩
120.2 x 82.7 cm

© Shogo Harada
撮影: 高橋健治